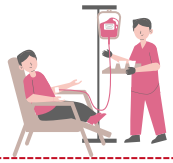
通院が難しい状況でも

赤血球・血小板 対応可能

在宅輸血を可能に



医療の在宅化が進む中で、訪問診療における在宅輸血のニーズが高まっています。
慢性疾患やがんの治療中の方、貧血による症状が強い方にとって、通院が難しい状況でも適切な治療を受けられることは大きなメリットです。

自宅で輸血をしたいという思いに可能な限り応えていく

当院では、患者様が「自分の家」で「家族」との、あるいは「自分の時間」を楽しく穏やかに過ごすことを目的としています。

メリット

通院負担の軽減（体力の消耗を防ぐ）
ご自宅でリラックスしながら治療を受けられる
ご家族と過ごす時間を大切にできる

注意点

輸血の適応が限られるため、主治医と相談が必要
輸血の副作用（発熱、アレルギー反応、感染リスク）
血液製剤の手配や調整に時間がかかる場合がある

在宅輸血の流れ

1 事前の診察と適応確認　事前の検査と準備が不可欠です
患者様の全身状態や輸血の必要性を診察し、在宅輸血が適応となるか判断します。

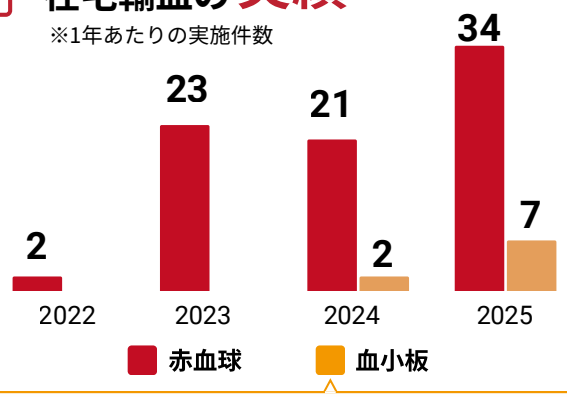
2 血液製剤の手配　血液製剤を2～6℃で適切に温度管理しています
血液は輸血前に適合検査（クロスマッチ）が必要なため、事前に採血を行い、検査結果を確認してから輸血を実施します。

3 訪問診療チームによる輸血実施　輸血の頻度は柔軟に対応します
輸血は医師が訪問診療時に行いますが、訪問看護と連携し安全管理をします。輸血時はバイタルサインをチェックし副作用がないか観察します。

4 経過観察とフォローアップ　事前の検査と準備が不可欠です
輸血後も状態の変化がないか確認し、必要に応じて再輸血や追加の治療方針を検討します。

在宅輸血の実績

※1年あたりの実施件数



当院では血小板輸血に必要な設備・システムが整っています

症例の背景疾患

- 急性骨髄性白血病
- 骨髄異形成症候群
- 悪性リンパ腫
- 胃がん
- 大腸がん
- 前立腺がん
- 非代償性肝硬変
- その他
- 急性リンパ性白血病
- 多発性骨髄腫
- 中咽頭がん
- 胆管がん
- 膀胱がん
- 原発不明がん
- 汎血球減少症（骨髄異形成症候群疑い）

医療法人めぐる
ごうホームクリニック
名古屋市天白区原1-1410 サンモール原103
TEL 052-803-5005 FAX 052-803-5006